

予備試験合格者が語る！短答翌日から論文試験までの過ごし方

担当 辰巳法律研究所専任講師 弁護士 松永健一講師

MEMO

第1 論文式試験とは？

予備試験・司法試験は実務家登用試験

→実務家に問われる能力は何か？

①法的知識

②争点整理能力…弁論準備手続，公判前整理手続，ベストエビデンス
混沌とした事実群から，主張・立証をする能力が必要

③時間管理能力…限られた時間で次々と事件処理をする必要がある。

→実務家になるために，予備試験・司法試験も同じことを求めている。

指揮者（コンダクター）であることが求められる。

第2 最終目標を知る。

論文式試験合格のためには，10通の合格答案をそろえる必要がある。

→合格答案とは？

①問題文の問いに答えている（明示又は黙示の誘導に乗れている。）。

②最後まで書ききっている（合格答案になるためには3頁いっぱいぐら
いまでは書きたい。）

③具体的事実の分析をしている。

第3 合格答案を作成するために何をすべきか？

1 現状を知る。

受験生としては，…

①法科大学院かつ最終学年

②法科大学院生かつ最終学年でない。

③予備専業受験生かつ論文式試験初受験

④予備専業受験生かつ論文式試験2回目・3回目

⑤予備専業受験生かつ論文式試験4回目以上

2 具体的な過ごし方

- ①法科大学院かつ最終学年 ②法科大学院生かつ最終学年でない

ア 授業を大切にす。

予備試験終了直後に期末試験がある学校が多い。

期末試験で良い点数をとるためにも，事前に準備しておく。その日の授業はその日のうちに復習する。判例等を学んだときは，その判例をどのように論証するかをまとめておく。

→松永：授業が終わると，その授業内で出てきた判例・論点を論証パターンにまとめていた。

イ 過去問の検討を行う。

優先順位としては、…

- ① 予備試験過去問(できれば答案化したい。平成23年から検討する。)
- ② 旧司法試験過去問
個数がかなりあるので、平成10年以降だけでもよい。もしくは、辰巳法律研究所から出ているえんしゅう本を早まくりする。
- ③ 新司法試験過去問
平成27年以降だけでもよい。近年は問題文もそれほど長くなく、予備試験に近接化している。さらに、新司法試験では詳細な出題趣旨・採点実感がある。試験委員(新司法試験と予備試験の考査委員は一緒)の求めている答案を知る。苦手な科目だけでもよい。また、行政法・民事訴訟法は傾向が違うので、無理に検討しなくてもよい。
- ④ 学者等が書いた演習書
個人的には2か月でここまでやる余裕はないと思う。
→松永：①③に関し、1日1問ぐらい答案化していた。私が合格した当時は旧司法試験がそこまで重要ではなかったが、現在の予備試験では同一論点も出題されている。

ウ 基礎知識のインプット

- ① 予備校本(欲を言えば、ここから自分なりの論証集を作りたい。)
 - ② 基本書(法科大学院で使用しているものでよい。)
- 松永：予備校から出ている論証集を下敷きにして、自分なりの論証集をまとめていた。
基本書はあまり使わなかった。論証集を作るうえで、リーガルクエスト会社法・刑事訴訟法はかなり参考にした。新進気鋭の学者が書いており、問題意識も含めて非常に分かりやすい。

エ 答案を書く練習をする。

- ① 過去問
- ② 予備校の答練
合格への一番の近道。基礎知識のインプットをしてから書きたいという人がいることも理解できるが、1日1問は答案を書く。時間内に書ききる訓練+論点をどのように書くかを知ることができる。
※早く泳げるようになるためには、海に突き落とす(司法修習における格言)

- ・③予備専業受験生かつ論文式試験初受験 ④予備専業受験生かつ論文式試験2回目・3回目 ⑤予備専業受験生かつ論文式試験4回目以上

基本的には、法科大学院生と同じ。ただ、働きながら受験している人など時間がない人がいる。法律実務家として行うことはトリアージ(⇒取捨選択)である。

法科大学院生との間で差が付きやすい科目は実務基礎科目である。まずは、定評のあるテキストを早まくりする。

また、判例の理解で差が出やすい(法科大学院は授業で判例をみっちりやる。)。判例百選等を読んで判例を深堀りする。ただし、時間をかけ過ぎ

ないこと。

MEMO

論文式試験が4回目以上の受験生は、何かやり方を変えた方がいいかもしれない。

何か大きな原因がある可能性がある。昨年までの敗因分析を今一度行うべき。

第4 各科目の学習

1 憲法

- ・予備試験の過去問 ◎
- ・新司法試験の過去問 ◎
 - 原告の主張，被告の主張，私見の書き方を学ぶ。
 - いわゆる人権パターンの論証を理解する。
 - 平成30年・平成31年新司法試験の傾向が変化したことをどう評価するか？
- ・旧司法試験過去問 △

2 行政法

- ・予備試験の過去問 ◎
- ・新司法試験の過去問 △
 - 傾向的には使いにくい。もっとも，訴訟選択，処分性や原告適格などの基本論点の書き方は学ぶべき
- ・予備校の答練の問題

3 民法

- ・予備試験の過去問 ◎
- ・新司法試験の過去問 △
 - 傾向的には使いにくい。
 - 新司法試験の民法は難問が多い。他方，予備試験の民法はオーソドックスなものが多い。
- ・旧司法試験の過去問 ◎
 - 近年の予備試験は旧司法試験の焼き直しが多い。昨年も同じ問題が旧司法試験・えんしゅう本に出ている。

4 商法

- ・予備試験の過去問 ◎
- ・新司法試験の過去問 ◎
 - 予備試験で問われた問題が新司法試験で問われることが多い。逆もしかり。
- ・判例の学習 ◎
 - 判例の事案そのままのことも多い。
- ・旧司法試験過去問 ×
 - トレンドが違う。えんしゅう本を一通り検討することで十分。

5 民訴

- ・予備試験の過去問 ◎
- ・新司法試験の過去問 △
→傾向的には使いにくい。新司法試験の民訴は、特に難問が多い。
- ・判例の学習 ○
→百選など、事例を意識した学習を行う。

6 刑法

- ・予備試験の過去問 ◎
- ・新司法試験の過去問 ◎
- ・旧司法試験の過去問 ○
→規範定立のみでなく、評価される事実の拾い方を学ぶ。
合格答案や、最高裁判例解説がお勧め。

7 刑訴

- ・予備試験の過去問 ◎
- ・新司法試験の過去問 ◎
- ・旧司法試験の過去問 ○
→刑法と同じく、規範定立のみでなく、評価される事実の拾い方を学ぶ。
合格答案や、最高裁判例解説がお勧め。
時間のない人には、「判例講義 刑事訴訟法」(渡辺咲子著)(不磨書房)
がよくまとまっていてよいと思う。

8 実務基礎科目

- ・予備試験の過去問 ◎
- ・司法研修所で使う教材で市販されているもの ◎
民事：「紛争類型別の要件事実」「新問題研究要件事実」
刑事：「プラクティス刑事裁判」「プロシーディングス刑事裁判」
→法科大学院生（特に、最終学年）と差がつきやすい科目である。
対策をしっかりと立てる。

9 一般教養

- ・予備試験の過去問 ◎
- ・個人的にはあまり深入りしない方がよいと思う。過去問だけでも8問あるので、どのように書けばよいかを意識する。